

## 第 1 回高齢者福祉計画策定委員会の報告

令和 2 年 8 月 1 7 日 開催

指 摘	対 応
① 現在、新型コロナウイルス感染症対策を行っている状況がある中で、ウイズコロナや新しい生活様式の視点を入れる必要はないのか。	個別事業の中に特化した形で設けず、全体の共通する内容の箇所（例として、市長あいさつや背景等に）感染症対策とのかかわり方を記載したい。

## 意 見

① 佐賀県高齢者要望等実態調査について 佐賀県高齢者要望等実態調査の「家族や友人・知人以外の相談相手」の項目について、現在独居高齢者が増えている。そのような方のほとんどは相談相手がいないにチェックを入れている模様である。このように、対象者によっては適しない調査項目もあるので、調査の内容も検討していただきたい。
② 災害時の個人情報の保護について 災害時に、早期に対応するために、世帯状況把握や連携体制整備が必要だと思うが、現実的には情報の公開、個人情報の保護が影響し、住民が情報提供に協力してくれずに苦慮することが多々ある。将来的に国の方向性が、情報公開と個人情報のバランスを図り、緊急的な情報については提供が可能となっていくかもしれないが、現状では、各個人と対応する地域では対応が難しいと感じている。
③ 認知症への理解について ケアマネジャーの立場として、利用者に行政や地域等、必要なところには個人情報等の情報を提供するように本人や家族に呼び掛けている。しかし認知症の方については、地域から除外されているような感覚をもたれるためか、家族も含め、本人の認知症を隠そうとされる。この感覚を払拭していかないと、認知症も同じように地域でオープンにすることができないと考え、地域や利用者に話をしている。